

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 25 年度

事業所番号	2770103782		
法人名	社会福祉法人 関西福祉会		
事業所名	陵東館秀光苑		
所在地	堺市北区長曾根町1199-6		
自己評価作成日	平成 26年 1月 20日	評価結果市町村受理日	平成 26年 3月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2770103782-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 26年 2月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりがかけがえのない「大切な家族」である事を理解し合い、暮らしの中で安らぎや共感を得られるよう関わりをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は高齢者の社会福祉事業を始めて以来、長い年月にわたって各種の福祉事業を進展させ、地域に貢献し根付いてきています。12年前に開設されたグループホームも、同法人のデイサービスやショートステイの利用者、地域のボランティアなど、地域住民とも一体感があがり、行事などを通じて日常的に交流を図っています。、職員のチームワークも良く、退職者も少ないことから、家族の信頼も得ています。利用者は優しい職員のサポートを受け、美味しい食事と安心のある医療体制に支えられ、元気で笑顔のある楽しい生活を過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員で確認し、地域生活の継続支援と事務所と地域との関係性を重視した理念を大切にしている。また、それを実践につなげる事を意識して関わることを職員全員で声を掛け合っている。	『「地域の中で共に支えあい、地域と共に歩む。」「ゆったりとした自由な暮らし。」「穏やかで、やすらぎのある暮らし。」「自分でできる喜びを感じる暮らし。」「自分らしさや、誇りを持った暮らし。』を理念と定め、明示しています。職員会議や毎日の業務を通じて職員が方針を共有し、介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族、地域の方と共に支えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議を通じて、自治会などのイベントに定期的に参加している。また法人行事の紅葉祭、納涼祭には地域住民の方の参加もされており日常的に交流している。	ホーム開設時より、地域とのつながりを大切にしています。餅つき大会や焼き芋大会等の地域行事への参加、法人行事やホーム独自の行事を通じて、日常的に交流を深めています。また、地域からのボランティア訪問が多く、歌体操・ハーモニカ・フルート等、利用者は職員と一緒に楽しい時間を過ごしています。保育園や小学校からの訪問、中学校の職場体験や福祉専門学校の実習生の受け入れも行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	過去に介護者教室にて、地域の方への認知症についての芝居などを行ったことなどはあるが近年はなく、今後、検討が必要である。まずは入所者の家族に向けた支援や指導の機会を持ち、取り組んでいきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて状況報告は必ず行い、困難事例などがあれば意見を求め、反映するようにしている。	運営推進会議は、開催規程を作成し、2カ月に1回開催しています。メンバー構成は、地域包括支援センター所長・民生委員・近隣住民・家族となっています。会議では、利用者の生活状況、行事での様子はスライドを使用し、詳細に報告しています。また、参加者からの意見や要望、助言を得ながら、今後のサービス向上に活かしています。今後の課題として、非常災害時における地域との協力体制について、話し合う予定です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に北区基幹型包括センター所長が参加され、事業所の実情などを伝えている。	市や地域包括支援センターとは、報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。管理者は地域のグループホーム協議会に参加し、世話役も務めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束委員会を設置している。勉強会にて事例をあげて意識の確認を行い、防止に努めている。また、困難事例があった場合には職員間での情報を共有し、随時カンファレンスを行っている。	職員は、法人の身体拘束防止委員会や高齢者虐待防止委員会で研讃を重ね、意識の向上に努めながら、身体拘束のないケアに取り組んでいます。グループホームの入口扉は職員間で話し合い、日中の時間帯は開錠しています。また、外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に高齢者虐待防止委員会を設置している。委員会を中心に全職員が学ぶ機会として、勉強会で例を挙げて検討している。また、参加できていない職員には記録を回覧して、周知できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や文献、法人のから情報などで学んでいる。また機会があれば研修に参加し、研修記録を職員間で回覧して周知できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、時間をかけて丁寧に説明するよう心掛けている。その後も面会時など、不安な点はないかなど話を聞きだせるよう心掛ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が意見や思いを伝えられるよう、面会時、家族会、ケアプラン説明時等で常に問い掛けている。また地域推進運営会議に参加された家族より、その都度、意見が頂けている。</p> <p>意見箱を設置し、直接言いにくい事柄を集めて職員間で共有し、検討している。</p>	<p>「秀光苑たより」は、利用者一人ひとりの暮らしぶりを写真に撮り、3カ月に1回利用者家族に送付しています。家族の面会時には、利用者の生活状況や連絡事項を伝え、意見や要望について問いかけています。運営推進会議や家族会の開催により、家族が自然に発言できるよう環境を整えています。また、前回の外部評価結果を受けて、より利用者家族の声を聞くために、「家族アンケート」を実施する予定です。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日常において、意見を尋ねられることは少ない。職員会議など職員が集まる機会を通じて、意見を尋ねるよう心掛けている。</p>	<p>職員は、定例の職員会議や日常の業務を通じて、意見や提案をする機会があります。職員のチームワークは良く、退職者もほとんどいない状況です。職員に対する家族の評価も高くなっています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員会議などで、勤務状況、給与水準の話が時にされることはあっても、職員側からの意見ややりがいについての話し合いがもたれにくい。</p> <p>しかし、代表者からは残業、超過勤務などについて極力避けるようにとの声があり、実際の勤務でも時間内に収まるようにする工夫はなされている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内での勉強会や認知症介護実践者研修をはじめ、その他の研修の案内を常勤、非常勤も含めて希望を募っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流として、北区グループホーム協会での会合や勉強会はあるが、相互訪問を行うなど今後、必要であると感じている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が暮らしの中で不安な事や困っている事に耳を傾けるように寄り添いのケアを行っている。その上で生活の中で自然と要望が聞ける雰囲気づくりに努めている。また、共有の時間を通じて信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に情報収集をしながら、家族の要望や利用の際の疑問点などを含め、利用者自身の不安点や困っていることを聞いている。 家族の意向や希望を受け止める姿勢を大事にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に聞いていた意向、希望を含めて今、必要な支援は何かという事を随時、話し合っている。緊急性を見極め、法人全体で支援を行い、その上でケアにつながる対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らしているということを常に意識しながら、多くのことを知っている人生の先輩として学ぼうとする謙虚な姿勢と敬う気持ちを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に本人のケアを考えながら、時には職員と共にケアを実行してもらえるよう支援している。本人が安心して過ごせるよう家族との絆の大切さを意識しながら、共に本人を支えていける関係づくりを築いている。 来訪時には若い頃の話の話を聞いたり、一緒に活動したりと本人と共に楽しめるよう、またいつでも来てもらえる雰囲気づくりを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的開催している家族会に友人、知人が参加される。また、知り合いの訪問理容師が定期的に訪問され、馴染みの関係が途切れないように関わりを大切にしている。 法人のショートステイやデイサービスを利用されていた方が入所されるケースがあり、行事を通じて顔馴染みの利用者や職員との交流がある。	併設するデイサービスやショートステイに来所している友人に会いに行くこともあります。また、馴染みの理容師が来訪した際は整髪してもらったり、家族と共に外出したりするなど、馴染みの関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や想いを理解し、日々、利用者同士の関係の良し悪しを様子観察する中で、孤立やトラブルがないように努めている。その上で職員が中継ぎとなり、良いところはもっと良く、あまり相性が良くない利用者同士に対しては調整するように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された他ユニットの利用者の家業であるクリーニング店を引き続き利用し、関係を継続させている。 以前、入所されていた利用者の家族がボランティアで来られたり、地域推進委員会に参加されたりと協力的に関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活は、本人の希望、要望の上に成り立つものである事を常に意識し、想いが聴けるように関わり、把握に努めている。想いが表しにくかったり、意思疎通が困難な方に関しては表情から汲み取ったり、家族を交えて本人の思いや意向を話し合う機会を設けている。	利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努め、聞き取った思い等はケース記録やケアプラン用紙に記録し、情報の共有化に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族にフェイスシート(生活歴や既往歴を記すもの)を記入してもらい、情報収集に努めている。また、家族面会時にも詳しく話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の何気ない会話や表情を読み取り、行動に気を配り、心身状態を把握する。また、利用者一人ひとりの日々の過ごし方が、職員の間で情報共有できるようにケース記録を活用している。また、「したい事」「できること」の現状把握を職員同士で確認しあえるように随時、カンファレンスしている。退院間もない方にも本人の状態、ペースに合わせた対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族には、日々の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含めたモニタリング、カンファレンスを随時、行うようにしており、職員全体で本人が主体となった、より良く暮らすための課題とケアのあり方について検討している。</p>	<p>現在、利用者の状況は軽度で比較的安定していますが、介護計画は6カ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。定例の職員会議の時や、必要の都度カンファレンスを実施しています。また、モニタリングを行い、家族とも話し合って介護計画の見直しにつなげています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケース記録の考察・備考欄を活用することにより、介護計画の見直しや実践のヒントが得られるようにしている。</p> <p>また、日々の変化の情報収集できる手段として、職員間で共有できるものとしても活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の状況に応じて、通院等の必要な支援には柔軟に対応している。医療連携体制を活かし、早期退院の支援、退院後の回復への支援、薬剤の検討、医療処置を受けながらの生活継続を行っている。</p> <p>特に歯科医は協力機関であり、本人や家族が納得できるまで治療、処置を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や校区の催しなどに参加している。ボランティアの受け入れや家族、友人、職員の家族が自由に入出りできる雰囲気を作り、様々なインフォーマルな資源を活用できるよう模索している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設管理医師、看護師と連携を図り、必要に応じた医療機関へ受診している。また、家族の協力も得て、希望があれば以前より通院していた病院へ継続していけるように対応している。	家族の同意を得て、大半の利用者が法人の診療所の医師の医療を受けています。また、法人看護師より週1回、訪問看護も受けています。入居前からのかかりつけの医療機関へ受診する利用者には、家族の協力を得て支援しています。協力医療機関と連携し、夜間や緊急時の対応についても体制を整備しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で、変化や気づきをすぐに看護師に伝え相談している。それぞれの利用者が、適切な受診や看護を受けられるよう早期発見に努めている。また、使用する薬剤の作用、副作用の情報を把握し、より効果的に用いられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病状のみならず、生活面を主としたサマリーを入院機関に提出し、本人の状態を伝えるよう努め、可能な限り面会に出向き、サマリーでは伝えきれない事業所での様子を伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の関わりの中から、本人及び家族の意向、要望を早い段階から汲み取り、重度化した場合なるべく希望に沿えるよう支援を行っている。看護師と連携し、終末期のあり方について話し合い、看取りケアを行う場合もある。事業所が対応しうる支援方法を示しながら家族、本人と話し合い、できるだけここでの生活が続けられるよう取り組んでいる。また、長い目を見た支援体制の整備やいざという時の対応を日頃から話し合い、職員間で方針を共有している。	以前、医療関係の職員が配置されていた際は、数例の看取りの実績がありましたが、現状では看取りを実施しない方針です。利用者が重度化した場合、法人全体で対応することを入居時に伝え、了承を得ています。今後、利用者が重度化した場合、できるだけホームでの生活が続けられるよう、状況の変化とともに、利用者や家族、医師、看護師、職員間で話し合いを行い、方針を共有しながら対応していく予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網、入浴時の急変時対応表、体調不良時のチェックポイントを置き活用するようにしている。勉強会などで、職員は救命処置について講習を受けている。また、応急手当や緊急時の対応についても話し合い、マニュアルも目の届くところに配置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に利用者と共に避難訓練を行っている。校区の消防署にも参加してもらい、助言や確認をしてもらっている。その都度、マニュアルに追記や訂正を加え、改善にも取り組んでいる。	年1回、消防署立会いのもと法人全体で消防避難訓練を行い、2ヵ月毎に自主避難訓練を実施しています。災害時の食料と水の備蓄については、法人とホームの双方で備蓄しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることがないように、言葉使いだけでなく声の大きさや表情にも注意する。また、常に意識して、互いに指摘し合えるような雰囲気づくりに努める。 個人情報やケース記録は厳重に保管し、知り得た情報を他で話すことが無いようにしている。	職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように配慮して、やさしい雰囲気ですべて接しています。職員は法人の人権委員会などで研鑽を重ね、意識の向上に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を尊重するとともに、自ら意思を表しにくい方からは、普段の会話や仕草、表情から汲み取るようにする。思いや希望をストレートに表す人、遠慮がちに表す人、後から伝えてくる人など個々に応じた自己決定の支援を行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事、消灯の時間は一応設けているが、本人の希望、体調、ペースに配慮しながら柔軟に対応している。 また、排泄も本人のリズムに合うように心掛けている。 外出や行事への参加も希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じて職員も服を選んでいる。 自身で選ぶことが困難な方でも、家族の方に依頼して、服を購入してもらったりしている。 また、訪問理容を活用し、定期的に散髪している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや、食事の好き嫌いも配慮しながら、なるべく全員が美味しく食べる事のできるメニューを考えている。好き嫌いがある人は、家族の協力も得て、本人が好む食材を持って来てもらい提供している。 また食事一連の過程の中で、何らかの役割を持つように働きかけている。 季節のイベントや誕生日会など、その時に合わせた嗜好を変えたメニュー、手作りのケーキなどを提供して楽しんでもらっている。	併設特養の厨房から、朝食と昼食が届きます。夕食については、食材が届き、ホーム内で献立を作成し、調理を行っています。利用者は、配膳や下膳、盛り付け等の役割を担っています。また、利用者の意見や要望を聞き、手作りおやつやイベント食、外食会を開催しています。職員は、利用者が本人のペースで、食事を楽しむことができるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量は記録に残して、職員全員が把握できるようにしている。 一人ひとりの状態により、形状や調理法を工夫しており、摂取量の低下がみられた方に関しても、看護師を交えてのカンファレンスを行い支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や、本人の力に応じて歯磨き粉やブラシ、口腔ケアの声掛け、義歯の手入れを行っている。 必要に応じて、歯科受診も考慮する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の生活リズムの自然な流れで、トイレでの排泄が可能になるように、利用者からのサインを見逃さないよう、排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めている。 また、紙パンツ、パット類も本人に合わせて、検討、見直しを行っている。	排泄の記録をとり、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しています。利用者の仕草や表情から状況を判断し、声かけや誘導、見守りによる排泄支援を行い、トイレでの排泄を実施しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に合わせ、ヨーグルトやオリゴ糖を摂取してもらっている。また、朝のラジオ体操をなるべく毎日行えるようにすすめている。 看護師へ排便状況を伝え、内服のコントロールも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望の際、その都度、その方に合わせえた湯温に調整している。 拒否する方も無理には誘わず、時間をあけて再度誘ってみて、快く入った時は、どのような声掛けを行ったかなどを検討し、情報を共有できるよう努めている。	利用者は、平均して週2～3回入浴を楽しんでいます。希望すれば毎日でも入浴ができます。菖蒲湯やゆず湯など、季節の行事風呂も実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>温度調節や騒音に配慮して、良眠できる環境作りに努めている。寝付きにくい方には、しばらく付き添うことで安心して眠れる状態をつくり、空腹の訴えがある方には、温かい飲み物や汁物を提供している。</p> <p>また、高齢で身体的に起きていることがしんどい方には、日中も臥床を促し安静を図るようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々のケースファイルに服用している服薬の情報を添付しており、いつでも確認できる。必要に応じて、服薬介助や確認を行っている。</p> <p>また、誤薬のないように服薬前に必ず名前をついた仕切りの箱に指示薬を入れることで、服薬前にもう一度名前の確認ができるように努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ドリルや塗り絵等をすすめ出来上がった作品を居間に展示し、達成、満足が得られるように働きかける。食事、洗濯等何らかの形で役割が持てるようにし、実際の行動はなくとも「洗濯するのでお留守番よろしく」「この漢字どう書くの？」など形が残らない役割も重要と捉えている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の気分や希望、目的や本人の状況に合わせて、また家族の協力も得て外出を行っている。天気の良い日には玄関先まで行き、外気に触れる機会をつくっている。 また外出しやすいようにドライブがてらにユニットで外食の機会をつくり、共有できる喜び、楽しみを支援している。 地域の方には、校区での行事（花見や祭りなど）に招いてもらい、協力を頂いている。	利用者の希望や体調に応じ、利用者家族の協力も得て、買い物や外食、地域行事等に出かけています。緑地公園に出かけた際、地域のガイドボランティアを利用し、公園内のハーブ園に立ち寄りました。また、日常的な外出支援が増えるよう、職員は、手段について発想の転換や工夫がないか、その可能性について話し合いを進めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理は職員が行っているが、小遣い払い出し伝票には、現金確認と受け取りサインをしてもらう事で、普段は意識しない「お金」というものの大切さを思い出してもらい機会としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人と家族との電話は、なるべく希望時にできるように対応している。 今後、遠方の家族に対して、近況状況などを手紙でやり取りができるよう支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>日常生活音、匂い、音楽、季節感を意識的に且つ自然に取り入れている。緑や花、その季節に合った物を置くことで季節感を出すようにしている。</p> <p>また、テレビや音楽の音も不快にならないように音量に注意している。</p> <p>居間にはテーブルと椅子の他、ソファをおいており、いつでもゆったりと過ごせるように配慮している。肘掛け椅子の配置を検討したり、小テーブルを利用したりし、一人ひとりの居場所が確保できるようにしている。</p>	<p>利用者が、昼間に過ごす共有空間として、居間のほかに利用者同士や訪れた家族と寛げる談話室を設けています。談話室にはテーブルや椅子、ソファを配置し、雛人形飾り壇も飾る等、落ち着いた雰囲気があります。居間には季節の花や飾りがあり、行事写真や娯楽道具、ソファなども置かれています。居間は少し手狭ながら、利用者にとって優しく温かみのある家族的な生活空間になっています。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>居間にはテーブルと椅子の他、ソファを置いており、いつでもゆったりと過ごせるように配慮している。</p> <p>肘掛け椅子の配置を検討したり、小テーブルを利用したり、一人ひとりの居場所が確保できるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた物を持ち込む事で、居心地よく過ごせるように配慮している。 また馴染みの物は何か、日々の関わりで本人や家族より聞くようにし、希望を言いにくい方には、殺風景にならないように職員が落ち着ける雰囲気作りに努めている。	居室には、机や椅子、ソファ、衣装ケース、鏡台、家族の写真、塗り絵作品などが持ち込まれています。家族の訪問予定日をカレンダーに書き込み、訪問を楽しみにしている利用者がいます。また、家族の持ち込んだ生花や子どもの活躍を祈る七夕の短冊を飾り、好きな演歌歌手のCDを聞かためラジカセを持ち込む等、個性的な居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りや声掛けにより、事故に配慮しながら、自由にエレベーターが使用できるようにしている。 苑内は必要に応じて手すりを設置しており、安全に過ごしてもらえるように努めている。 また、手すり付近へ障害となるものはないか常に確認している。		